

CASBEE-建築(新築)2016年版
福岡空港国内線複合施設■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境					0.40		-	3.3
1 音環境				3.8	0.15	3.2	1.00	3.7
1.1 室内騒音レベル		—		3.0	0.40	4.0	0.40	
1.2 遮音				5.0	0.40	3.6	0.40	
1 開口部遮音性能		一般部はT-2仕様、ホテル客室はT-3仕様のサッシを採用		5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		ホテル客室界壁をTDL52以上の仕様とした		-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		—		-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		—		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		事務所、休憩室等は天井を吸音タイプとし、機械室はグラスウールボード		3.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境				2.8	0.35	2.5	1.00	2.7
2.1 室温制御				2.6	0.50	2.1	0.50	
1 室温		—		3.0	0.46	3.0	0.57	
2 外皮性能		low-eペアガラス採用		1.0	0.19	1.0	0.43	
3 ゾーン別制御性		—		3.0	0.35	-	-	
2.2 湿度制御		—		3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		—		3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境				3.8	0.25	3.0	1.00	3.7
3.1 昼光利用				4.0	0.93	3.0	1.00	
1 昼光率		—		-	-	-	-	
2 方位別開口		—		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		トップライトを設ける		4.0	1.00	3.0	1.00	
3.2 グレア対策				2.0	0.07	-	-	
1 昼光制御		—		2.0	1.00	-	-	
3.3 照度		—		-	-	-	-	
3.4 照明制御		—		-	-	-	-	
4 空気質環境				3.3	0.25	3.3	1.00	3.3
4.1 発生源対策				3.0	0.50	3.0	0.63	
1 化学汚染物質		—		3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気				4.0	0.30	4.0	0.38	
1 換気量		—		3.0	0.50	3.0	0.50	
2 自然換気性能		—		-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		—		5.0	0.50	5.0	0.50	
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		—		3.0	0.43	-	-	
2 喫煙の制御		—		3.0	0.57	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.6
1 機能性				3.7	0.40	3.2	1.00	3.7
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性		—		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		—		3.0	0.00	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画		—		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				4.1	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観		—		3.0	0.29	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		2～5階に各々休憩室を設け、自販機等を設置する		3.0	0.13	-	-	
3 内装計画		各空間のコンセプトに合わせて内装計画を行っている		5.0	0.58	4.0	0.50	
1.3 維持管理				4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		—		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		—		5.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.7	0.30	-	-	3.7
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		—		4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		—		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		—		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		—		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		—		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		ガルバリウムダクト		5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		—		4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		—		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				4.3	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		—		5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		—		4.7	0.20	-	-	
3 電気設備		—		5.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		重要機器を耐震クラスSとし、一般機器をAクラスとする		4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		—		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.4	0.30	2.4	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり				4.0	0.26	1.8	0.50	
1 階高のゆとり		—		5.0	0.50	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		—		3.0	0.50	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		—		3.0	0.26	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.4	0.49	-	-	
1 空調配管の更新性		—		3.0	0.20	-	-	

	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	5.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.30	-	-	2.7
1	生物環境の保全と創出			—	1.0	0.30	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮			屋上広場に植栽や広場を設け、緑を感じられる景観とした	3.0	0.40	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			—	4.0	0.30	-	4.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	通勤時間帯などのピーク時を想定し、主だった敷地内通路は幅4m	5.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				—	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	3.5
1	建物外皮の熱負荷抑制			—	5.0	0.20	-	5.0
2	自然エネルギー利用			—	4.0	0.10	-	4.0
3	設備システムの高効率化			—	3.0	0.50	-	3.0
4	効率的運用			—	3.0	0.20	-	3.0
	集合住宅以外の評価			—	3.0	1.00	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			—	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.2
1	水資源保護			—	3.5	0.20	-	3.5
	1.1	節水	—	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	—	3.3	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	4.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			—	3.0	0.60	-	3.0
	2.1	材料使用量の削減	—	3.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—	1.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	3.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	—	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			—	3.6	0.20	-	3.6
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	—	5.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避	—	3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	—	3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.2
1	地球温暖化への配慮			—	3.6	0.33	-	3.6
2	地域環境への配慮			—	3.2	0.33	-	3.2
	2.1	大気汚染防止	—	3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制	—	4.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	-	-	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.33	-	-	
	3	交通負荷抑制	サービスヤードや搬入車の荷捌きスペースを別途確保している。	5.0	0.33	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	4.0	0.33	-	-	
3	周辺環境への配慮			—	3.0	0.33	-	3.0
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止	—	3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	0.33	-	-	
	2	振動	—	3.0	0.33	-	-	
	3	悪臭	—	3.0	0.33	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制	—	3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	1.0	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制	—	3.0	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	—	3.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	3.0	○	○	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	8.0	-	○	○	○	-	○	○	○	-	-	○	-	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	10.0	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	3.0	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	4.0	3.0	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	3.0	-	-	-	-	-	-	-	1.0	-	1.0	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	5.0	-	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	11.0	-	2.0	-	3.0	-	-	2.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-

LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	2.0		-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無				○											
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	1.0	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-									
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	○	-										
3.1 有害物質を含まない材料の使用	5.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0		1.0	2.0	-	-	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0			
2.3.3 交通負荷抑制	5.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	4.0		1.0	1.0	1.0	-		1.0	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		1.0	1.0											
主な指標															
Q1 室内環境															
2.1.3 外皮性能															
窓システムSC 0.5 窓の日射熱取得率(η) -															
U値(W/m2K) 窓システム 4.1 屋根 0.7 外壁 0.7 床 0.4															
住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -															
屋光率 1.5%															
自然換気有効開口面積率 3.3%															
Q2 サービス性能															
1.1.1 広さ・収納性															
執務スペース 6.0㎡ /人 病床 8.0㎡ /床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡															
1.1.2 高度情報通信設備対応															
コンセント容量 30.0 VA/㎡															
1.2.1 広さ感・景観															
天井高 2.4 m															
1.2.2 リフレッシュスペース															
リフレッシュスペース 2.3% レストスペース 2.3%															
2.2.1 躯体材料の耐用年数															
想定耐用年数 30 年															
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															
想定必要間隔 20 年															
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															
想定必要間隔 0 年															
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔															
想定必要間隔 0 年															
3.1.1 階高のゆとり															
階高 4.2 m															
3.1.2 空間の形状・自由さ															
壁長さ比率 30.0%															
3.2 荷重のゆとり															
床荷重 4000 N/m2															
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出															
外構緑化指数 34% 建物緑化指数 0%															
3.2 敷地内温熱環境の向上															
空地率 20% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 0% 舗装面積率 0%															
LR1 エネルギー															
1 建物外皮の熱負荷抑制															
BPI/BPI _m 0.64 断熱等性能等級 等級2 相当															
2 自然エネルギー利用															
自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡															
採光を満たす教室数 80.0% 採光を満たす住戸数 80.0%															
通風を満たす教室数 80.0% 通風を満たす住戸数 80.0%															
3 設備システムの高効率化															
BPI/BPI _m 非住宅 0.80 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW															
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無															
雨水利用率 0.0%															
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用															
特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -															
2.5 持続可能な森林から産出された木材															
使用比率 5.0%															
3.2.1 消火剤															
オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)															
3.2.2 発泡剤(断熱材等)															
オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1430															
3.2.3 冷媒															
オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 8															
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善															
見付面積比 44% 隣棟間隔指標R _w 0.40															
地表面対策面積率 0.0% 屋根面対策面積率 16.0% 外壁面対策面積率 0.0%															
見付面積S _b 40,000㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W _s 200 m 基準高さH _b 450 m															
緑地 430㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 300㎡ 高反射対策面 200㎡ 再帰性反射対策面 300㎡															